

■日 時 令和7年3月24日（月曜日） 午後6時30分～8時

■場 所 武蔵野市役所8階811会議室

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 障害者福祉課長あいさつ
- 4 配付資料確認

5 議事

(1) 日中支援型グループホーム「Life Design つむぎ」の報告について

【会長】

障害者総合支援法により、日中サービス支援型指定共同生活介護を実施する事業者は、協議会にて事業の実施状況を報告し、必要な要望、助言等を聞く機会を設けなければならない、とされている。

【社会福祉法人睦月会】

報告内容は資料1のとおり。

【委員】

①短期入所利用の理由にある「体験」とはどのような体験を指しているのか。②「支援者のレスパイト」の支援者とは家族を指しているという理解でよいか。③たん吸引が必要な利用者の退所理由を教えてください。

武蔵野市では10月にあったかまつりを開催しているので、来年度はぜひ参加してほしい。

【社会福祉法人睦月会】

①ショートステイ利用したことが無い方向けに宿泊体験を行っている。②支援者である家族の負担が大きいことから、家族の負担軽減を目的としている。③施設の職員体制として1時間に1回のたん吸引が難しいため、利用者の次の生活を考える中で家族と相談のうえで他施設へ移った。

【会長】

②体験について、入所を目的としていなくても、体験してみたい方がいれば受け入れているという理解で良いか。③市のイベントへの参加についてはどうか。

【社会福祉法人睦月会】

②そのとおりである。③参加の方法も含めて、ぜひ検討したい。

【副会長】

知的障害のある方の高齢化が地域の課題になっている。Life Design つむぎで、高齢化に備えて取り組んでいることや取り組もうとしていることがあれば教えてほしい。

【社会福祉法人睦月会】

入居者の高齢化に伴い、成年後見人についての勉強会を開くなど家族と一緒に理解を深めていくことに取り組んでいる。また、医療的ケアが必要になったときに、どのように他の施設と協力できるか、Life Design つむぎを終の棲家として利用するうえでの課題について共有している。

【会長】

資料にあるバックアップ施設とは同じ法人か。看護師の派遣という説明があったが、具体的にどのようなバックアップ体制を整備しているか。

【社会福祉法人睦月会】

緊急時に職員の受け入れ体制が整わない場合は、同法人内の他のグループホームで短期入所を行ったり、他事業所からの応援職員を派遣したりして対応している。看護師がグループホームを移動しながら支援ができるように連携して対応している。

【会長】

協議会で検討してほしいことや一緒に活動したいことなどはあるか。

【社会福祉法人睦月会】

昨今、グループホームでも発災時の事業継続が課題になっている。地域の方と一緒に災害時のことを具体的に考えていきたい。Life Design つむぎにも、知的障害や自閉症の方が泊まれるスペースがあるので、災害時の受け入れができる施設を目指したいと考えている。

(2) 武蔵野市地域生活支援拠点等事業の事業報告（社会福祉法人武蔵野）

【事務局】

地域生活支援拠点等事業は、障害の重度化や親なき後を見据えて、様々な支援の体制づくりをする事業であり、相談、緊急時の受入れ・対応、体験の機会の提供、専門的人材の確保・育成、地域の体制づくりの5つの機能を整備し、障害者の生活を地域全体で支えていく仕組みづくりである。

武蔵野市では「緊急を緊急にしない支援体制づくり」をキーワードに、令和5年度から障害者地域生活支援ステーションわくらす武蔵野に事業を委託している。

【社会福祉法人武蔵野（拠点コーディネーター）】

資料2に沿って事業報告。

【会長】

資料の中で、要件アの障害福祉サービス等の利用が必要だが利用が無いケースは、相談は受けているが具体的な通所やグループホームといったサービスの利用が無いということか。

【社会福祉法人武蔵野（拠点コーディネーター）】

そのとおりである。相談はあるが、福祉サービスにはつながっていない状況である。

【会長】

地域生活支援拠点は、グループホームやショートステイの施設との連携が不可欠だ

と考えている。今回、グループホームの状況調査したのは、今後どのような連携が可能かを探るためか、もしくは今後グループホームの利用者が今の状況を維持しにくくなることを予測してのことなのか、調査の意図を伺いたい。

【社会福祉法人武蔵野（拠点コーディネーター）】

今後事業を進めていくために、市内グループホームの部屋数、入居されている方の年齢層等の実態を把握するために実施した。また、事業内容のことを説明し、今後、短期入所の利用やグループホームでの体験につなげたいという狙いがあった。

【会長】

地域生活支援拠点の役割を担う上でグループホームとの連携は欠かせないので、グループホームの状況を把握するという点において有意義な調査だったと思う。

【委員】

虐待の疑いがある場合にはどのような対応が考えられるか。

【社会福祉法人武蔵野（拠点コーディネーター）】

計画相談支援事業所と情報を共有し、基幹相談支援センターへ通報するとともに、支援者がいち早く異変に気づけるように体制を構築する。

【委員】

体験に関する説明の中で、家庭以外の集団生活に慣れるという表現があったが、一人暮らしを視野に入れた体験や短期利用はどのようになっているか。また、事業をどのように周知しているか。

資料中に「家族による介護力の低下」という表現がある。家族介護を前提としているが、地域での支援とソース不足がこの表現につながっているので、今後、この表現を変えていける体制になると良いと思った。

【社会福祉法人武蔵野（拠点コーディネーター）】

当法人は知的障害を中心とした支援をしているが、今年度は精神障害や発達障害の方のケース検討をする中で、一人暮らしの方が入院してから地域移行するケースや、緊急時でも自宅で過ごしたいというケースなど、様々なケースがあると感じた。来年度は一人暮らしの方の介護や支援の広がりについて考えていきたい。

【事務局】

周知の方法は、武蔵野市のホームページに掲載しており、パンフレット等の配布はしていない。現在9名が登録しているが、緊急対応が必要となる可能性はどの方にもある。全員を登録するには対応に限界があるので、まずは登録の基準や内容を明確にして、その上で周知の方法等を協議して決めていきたいと考えている。

【会長】

「家族による介護力の低下」という表現について、家族介護が前提という発想そのものを変えていかなければいけないという指摘だと思う。私たちも含めて意識していきたい。

【委員】

拠点事務会議と拠点会議をまとめて開催するといった検討はされているか。

【社会福祉法人武蔵野（拠点コーディネーター）】

今年度は初めて当法人以外の相談支援事業所にも関わっていただいた。来年度は職員の負担を考慮し、運営体制や方法、回数を見直していきたい。

【委員】

登録のある9名は、グループホームに入ったということなのか、まだ入る前の準備段階なのか。

【社会福祉法人武蔵野（拠点コーディネーター）】

グループホームや施設入所が必ずしもゴールではない。現在登録のある方は、日中は通所して帰宅後は自宅で過ごしている。緊急時に備えて、いろいろな関係機関がスムーズに動けるような連絡体制をつくるのが、相談機能の大きな役割の1つだと考えている。

【会長】

5つの拠点機能の中で、緊急対応が必要とされる方をあらかじめ把握しておくという意味での登録という理解で良いか。また、登録と事例検討は別という理解でよいのか。

【社会福祉法人武蔵野（拠点コーディネーター）】

私たちは知的分野から始めたので知的分野での基準は何となく分かってきたが、起こり得る緊急時の対応や基準は障害種別によって様々なので、どのように基準を変えれば支援を受けやすくなるかといった検討を行った。

【会長】

登録の基準が妥当かということも検討しながら、判定も同時進行で行っているところかと思う。基準も適宜更新されると思うので、またご報告いただきたい。拠点の事業は、地域生活・地域移行の中心となる取組なので、引き続きお願いしたい。

(3) 全体会の振り返りについて

【事務局】

資料3、4について説明。

【会長】

全体会は、令和5・6の2か年度を取りまとめて、次期の方向性を考える機会になった。全体会を振り返って、委員の皆様から今期の活動の振り返りと次期への課題について発言いただきたい。

【委員】

転居により新たに住民となった方について、コミセン便りなども活用してもっと地域とのつながりを持てれば良いと思った。当事者部会でも出た話だが、障害のある人があるコミセンを利用したいと言ったら、避難時等に何かあったら困るという理由で利用を断られたという話があった。コミセンは防災拠点になっていたりするので、そういうところを変えていかなければいけない。

【委員】

去年の全体会で会長から「情報の一元化」について発言があったが、「情報の一元

化」はつながることの根底の部分だと思う。幅広い参加者が集まっていたので、情報の一元化をテーマに意見交換をすることで、毎年情報が積み上がっていくと思う。

【委員】

全体会に参加した職員から、みんなで話し合うことで日頃考えていることを共有できて元気をもらった、全体会で話し合った内容を次年度の取組に繋げていけたら良いと感じた、という報告を受けた。

【委員】

「つながる」はどの分野にも関係するので、グループワークが盛り上がりやすかった。一方で、初めて話す方もいてエンジンがかかる頃に終わってしまったという印象があった。グループワークの時間がもう少し長いと良い。子ども分野など、日頃あまり関わりが無い方と情報共有できたので、すごく参考になった。

【委員】

年1回の全体会なので、もう少し進め方を工夫できると良い。開催できて良かったで終わるのではなく、今ある課題の解決につながると良い。例えば、子どものところで差別的な対応や権利侵害が起こっているので、協議会としてどうしていくかという話題に踏み込んだ方が良いと思った。

【委員】

住まい部会で実施した座談会を聞いている中で、当事者の皆さんがつながる場所、気軽に行ける場所を求めていることがよく分かった。自分の場合は気軽に行ける場所があってもあまり行かないので、自分の感覚と違う軸で考えなくてはならないと感じた。今後の仕事に生かしていきたい。

【委員】

グループBのグループワークで事業所でのバザーや餅つき大会の内容があるが、餅つき大会は、季節感もあり気分が盛り上がる楽しい企画だと思う。全体に周知することはできなくても、隣の事業所に声をかけて、まずは隣からつながっていけると良いと思った。

【委員】

グループディスカッションを通して、地域や社会に貢献したい人が結構いることが分かった。住まい部会でいうと、障害を持った人に部屋を貸したいという不動産屋もいるので、今ある資源を生かして、ウィン・ウィンの関係をつくっていききたい。

【委員】

相談支援ネットワーク部会として、2年間の集大成という気持ちもあったが、発表で終わるのではなく、今後に向けての意見もまとめたので、ぜひ今後につなげていただきたい。

【委員】

グループワークの中で、ライフステージが変わると高齢分野とのつながりが必要という意見があった。自分が関わる障害分野だけでなく、多職種・他分野とつながり、その情報を知った上で何を提言していくかということが大事だと思った。

【委員】

全体会の中で、当事者の方が以前別の地域で災害に遭われて、自治会に助けてもらったという話をしてくれた。武蔵野市に移り住んだ後、自分から自治会に挨拶に行ったところ、自治会の方が何かと気にかけてくれるので安心して生活できているという話を聞いて、つながりは大事だということを改めて認識できたのと同時に、もっと多くの人に聞いてもらうことでその大切さが伝わると思う。様々な人に全体会に参加してもらえるように頑張っていきたい。

【委員】

「つながる」というテーマを聞いた時に、対面で楽しく集うとか、趣味を通してのつながりといった先入観があったが、場合によっては生死に関わるようなつながりもあれば、むしろ放っておいてほしいという価値観もあるので、必要なつながりとつながらなくてもいい自由を分けて議論していけると良い。

今期は交流・つどいプロジェクトに参加したので、部会を通じて事業所の方とお話しする機会が少なかったが、全体会で久しぶりにお話しできて良かった。事業所同士も悩みを共有できて良かったという話があったので、次期の部会でまたお話しする機会があれば良いと思った。

【委員】

グループワークで当事者の方と触れ合う経験ができたことが一番勉強になった。武蔵野市では今こういう取り組みをしているということを自分から周囲の皆さんに伝えていくことが、一番のつながりではないかと思っている。

【委員】

グループディスカッションで各グループを回って話を聞いたが、コミセンやマンションの清掃員など、インフォーマルな社会資源とのつながりの事例がいくつか出てきた。そういうつながりをどう吸い上げていくかを意識しながら部会に参加できると良いと思った。また、そういったインフォーマルな資源を当事者とどうつなげていけるか考えていくことも大事だと感じた。

今期は相談支援ネットワーク部会として、部会長と一緒に当事者部会に参加した。つながりをつくる意味でも部会間交流はとても大事なので、より活発にできると良い。

【会長】

当事者部会から各部会に参加いただいているので、当事者部会の方はどの部会がどのような活動をしているという全体像を把握できていると思う。一方で、他の部会員が当事者部会の見学や当事者から話を聞きたい場合は、当事者部会に受け入れていただく体制を取っている。当事者部会の様子がわかる貴重な機会なので、ぜひ積極的に行ってほしい。

全体会では、グループディスカッション等を通して実際に集う場の持つ力を改めて感じた。全体会で様々なつながりが出てきたので、何かしらの見える形で残してい桁ら良いと感じた。

今回「つながり」というテーマでやってきたが、つながらなければいけないという

プレッシャーを感じる必要はなく、つながらない自由もあると思う。ただ、地域生活をしていく上で、いざとなったらつながれる状況をつくっておくことはすごく大事だと思う。つながるかどうかは本人の自由だが、いざとなったらつながれる状況をどう整えるか考えていけるとよい。

当事者部会とコミセンの話は、実際に一步踏み出したことでつながり、変化が生まれた。どのように一步を踏み出したら良いか分からない人がいると思うので、全体会を通して、そうしたアイデアを残しておきたいと感じた。いただいた意見も踏まえて、次期の活動につなげていきたい。

(4)「東京都内の自立支援協議会の動向」調査について

【事務局】

資料5について説明

【会長】

東京都では、セミナーの登壇者や連絡会で報告する自治体を決める際に、この動向集の内容を参考資料としている。武蔵野市の協議会もこれまで様々な取組みをしているので、ぜひ反映してほしい。追加等があれば事務局に連絡いただきたい。

【委員】

当事者の参画について、昨年は、障害種別に当てはまらない、どれか1つの種別に分けられないということで、欄をつなげる形で種別に関係なく全体の人数をまとめて記載した。今回、その他という欄ができたので、そこに人数を記載している。

【会長】

意図としてはよく分かるが、設問の意図として協議会へ参画している当事者の状況や偏りを把握したいという意図がある。武蔵野市は多様な当事者に参画いただいているが、当事者委員が1人も参加していない自治体や、参加していても知的障害や精神障害の方がいないところもある。その他欄に全部書いてしまうと多様な当事者が参画していることが見えないので、もったいないと感じる。その点も踏まえて、記載方法を相談したい。

(5)その他

【委員】

以前は何か活動する際に窓口になってくれる人がいた。当事者だけでは負担が大きいのので、合理的配慮をお願いしたいという意見が当事者部会から出ている。

【会長】

当事者部会は2つの活動に分かれていることもあり、そうした課題が出てきたのかと思う。今の意見も踏まえて次期の検討課題としたい。